

咳や消化器症状に対する柴朴湯の使用経験

医療法人社団 桑島内科医院 (香川県) 桑島 靖子

柴朴湯は小柴胡湯の証と半夏厚朴湯の証が兼ね備わる患者の治療に用いられる漢方処方であり、呼吸器症状の他に消化器症状などの様々な症状の改善が期待できる。本稿では柴朴湯の処方によってCOVID-19罹患後の咳嗽と食欲不振が早期に改善した症例と、逆流性食道炎やSIBOに伴う腹部膨満感が早期に改善した症例を供覧し、柴朴湯の可能性について考察した。

Keywords 柴朴湯、咳嗽、消化器症状、SIBO

はじめに

柴朴湯は小柴胡湯と半夏厚朴湯の合方であり、小柴胡湯の証と半夏厚朴湯の証が兼ね備わる患者の治療に用いられる¹⁾。柴朴湯の使用目標は、体力がふつうの人で、軽度の胸脇苦満、心窩部の膨満感があり、口が苦い、咳嗽、喘鳴、精神不安、食欲不振、嘔気、全身倦怠感、咽中炙癢などの咽頭の違和感を訴える場合に用いる²⁾とされており、種々の呼吸器症状の他にも消化器症状を訴える人にも用いられる。今回、咳嗽と消化器症状が柴朴湯で早期に改善した症例を経験したので報告する。

症例1 69歳 男性 (図1)

202X年9月10日初診時にCOVID-19陽性となる。37.5℃の発熱、食欲不振、咽頭痛、倦怠感を訴えたので麻黄附子細辛湯カプセルを処方した。この時点で咳の症状はなかった。9月16日再受診時、熱は下がったが引き続き食欲不振が見られ、新たに強い乾性咳嗽が出現した。食欲不振と脱水症状に点滴(チアミン塩化物塩酸塩、グリチルリチン・グリシン・システイン配合剤)を実施し、夏バテの兆候が見られたためコウジン末 2.0g/日を処方した。また、

この患者が元々ストレスを抱えていたことを考慮し、咳嗽に対してクラシエ柴朴湯エキス細粒(KB-96) 7.5g/日を処方した。KB-96服用初日より咳、食欲不振が改善した。患者は「咳が止まって体が楽になった。よう効いたわ」とKB-96を気に入っている様子だった。その後、COVID-19による下痢の治療などを行ったが、その間もKB-96は服用を続け、現在も継続服用中である。

症例2 63歳 女性 (図2)

202X年7月、腹部膨満感や胸やけを自覚し他院で胃カメラを施行し、逆流性食道炎と診断され、さらに癌化が疑われる所見を指摘された。ポノプラザンフマル酸塩 20mg/日を処方されたが、7日後も症状が改善しないため当院受診。これらの症状はSIBO(シーボ、小腸内細菌異常増殖症)による逆流性食道炎が原因と考え、ポノプラザンフマル酸塩を中止し、クラシエ半夏厚朴湯エキス錠(EKT-16) 12錠/日を処方したところ改善した。その後、9月28日に他院で再び胃カメラ検査を実施した際には逆流性食道炎および癌化疑いの所見はいずれも消失していた。ところが、10月17日に仕事と介護のストレスで腹部膨満感などが再度出現したため、継続服用していたEKT-16にジメチ

図1 症例1 臨床経過

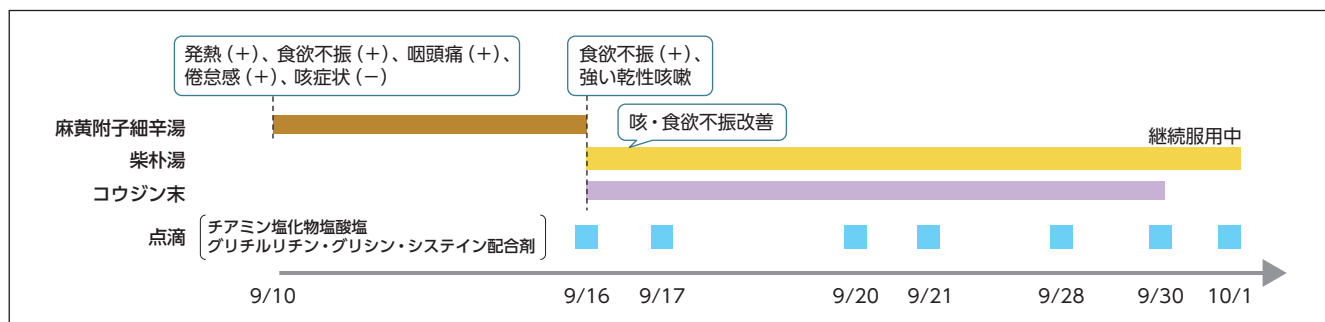
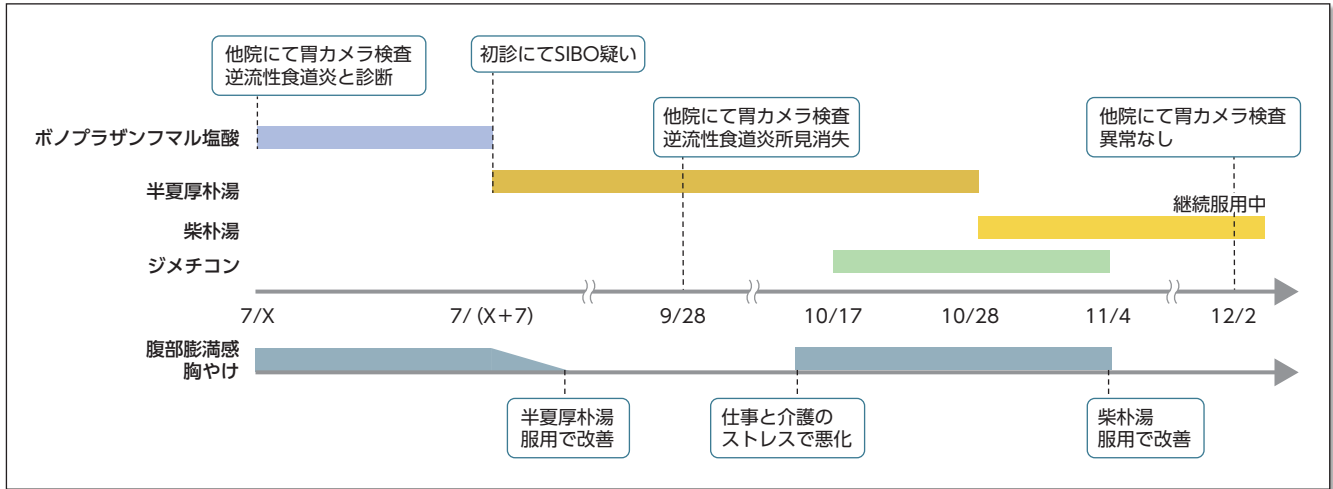


図2 症例2 臨床経過



コンを追加したが、10日後も変化はなかった。そこで、柴胡剤の抗ストレス作用を期待しEKT-16からKB-96 7.5g/日に切り替えた。KB-96切り替えから1週間後、症状が改善した。その後も逆流性食道炎の再燃はなく、12月2日の胃カメラ検査も異常はなかった。KB-96は現在も継続服用中である。

今回報告した2例において、薬剤に起因すると考えられる副作用は認められなかった。

考察

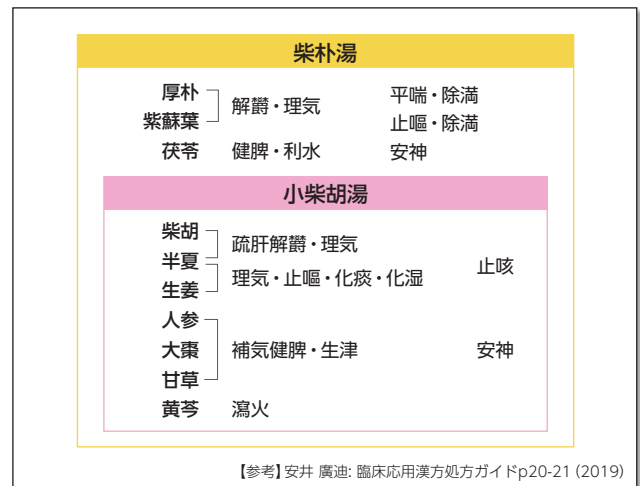
柴朴湯は小柴胡湯に厚朴・蘇葉が加わることで、解鬱・理気の効能により疏肝解鬱が強まり、止嘔・除満の効能により腹満悪心を抑制する処方である³⁾(図3)。また、特に本処方では気を下に降ろす働きが強いと筆者は認識している。体力がないところにかぜをひいた際やストレスによって肝気の流れが悪化すると、上半身の気の流れが悪くなり、肺気の逆上によって咳嗽、胃気の流れの悪化によって胃部膨満感や食欲不振を生じる⁴⁾。柴朴湯に含まれる半夏は肺気の上昇を抑え咳を解消し、厚朴・蘇葉は胃の働きを正常にして気を下へ向かわせ、半夏・生姜は上昇する胃の気を抑える働きがある。こうした構成生薬の働きが、呼吸器症状以外にも消化器症状の改善にも寄与していると考えられる。

症例1の患者は元々家庭環境でストレスを抱えており、半夏厚朴湯の証であったと考えられる。その状況下で

COVID-19に罹患し少陽病期を迎え咳嗽が出現した。柴朴湯の使用場面として、神経症的傾向、自律神経失調傾向、抑うつ傾向などの心的症状を有する半夏厚朴湯の証を備えた人が、感染症やアレルギー疾患に罹患して少陽病期の諸症状を呈した時などが挙げられる¹⁾。今回、柴朴湯の処方によりCOVID-19による咳嗽および食欲不振が早期に改善したため、まさに柴朴湯のよい適応であったといえる。また、柴朴湯は前述の通り、呼吸器症状に加え消化器症状にも改善を示すため、1剤で感染症の多様な症状改善に有用であると考えられる。

症例2は、SIBOによって引き起こされた逆流性食道炎に伴う腹部膨満感や胸やけに対して、半夏厚朴湯を処方しコントロールされていたものの、ストレスにより再燃したため柴朴湯に変方し、再び症状のコントロールが良好に

図3 柴朴湯の構成



なった症例である。SIBOは、2020年にアメリカでガイドラインが策定され、小腸内で過剰に細菌が繁殖することで引き起こされる消化管症状の臨床症候群として定義されている⁵⁾。胃酸分泌の減少など、何らかの原因によって増殖した腸内細菌が小腸内に流入した栄養素を発酵させることで、過剰なガスが生成され、腹部膨満感、腹痛、下痢などの症状が引き起こされる。さらに、SIBOにより胃の内容物がうまく小腸に運ばれず逆流すると、逆流性食道炎を引き起こすことがある。本症例はまさしくこの状態であった。SIBO患者に胃酸分泌抑制剤(PPI)を処方すると症状は改善することはなく、むしろ悪化するが、SIBOはまだ本邦では認知度が低いため、SIBOと気付かずPPIが漫然投与されている例は特に高齢者で多く、注意が必要である。本症例でも、他院でPPIが処方されていたので服用を中止し、半夏厚朴湯を処方した。漢方薬単独での治療だったが、逆流性食道炎の症状と所見の消失を認めることができた。柴朴湯は、抗ストレス作用を持つ柴胡が配合されている⁶⁾。そのため、半夏厚朴湯で症状が改善されている場合も、ストレスにより症状が再燃・悪化した際には、柴朴湯への変方が有用であると考えられる。

結 語

今回、柴朴湯の服用によって、COVID-19による咳・食欲不振と、SIBOに起因する逆流性食道炎の諸症状が早期に改善した2例を報告した。柴朴湯はストレスがベースにある患者の呼吸器症状のみならず、消化器症状など様々な症状の改善が期待できる。

【参考文献】

- 1) 山際幹和: 特集 漢方はどこまで有効か 耳鼻咽喉科診療で用いる漢方薬 柴朴湯. JOHNS 29: 2047-2051, 2013
- 2) 中野 哲 ほか: 実践漢方ガイド 日常診療に活かすエキス製剤の使い方. 医学書院, 第1版: 234, 2010
- 3) 森 雄材: 図説 漢方処方の構成と適用. 医歯薬出版株式会社, 第1版: 148-149, 1985
- 4) 川添和義: 図解漢方処方のトリセツ. じほう, 第2版: 164-165, 2021
- 5) Pimentel M. et al.: ACG Clinical Guideline: Small Intestinal Bacterial Overgrowth. Am. J. Gastroenterol 115: 165-178, 2020
- 6) 渡辺大士 ほか: オレキシン分泌の制御を介した加味逍遙散の抗ストレス作用. 昭和学会誌 77: 146-155, 2017